



@幸せな贈り物



あなたを

メインストリームに

Main stream

招待します

世の中にも
流れがあって、

私たちは今日を生きていきますが、未来に対する
関心が多くあります。それで、ある人たちは新年の
運勢を知りたくて、占い師に尋ねたりもします。
毎年年末になれば、次の年のトレンドが提示されたりします。

<痛いから青春だ>というベストセラーで有名なソウル大生活科学研究所キム・ナンド教授は「ト
レンド 코리아 2013」を発表しました。

①ヒステリーの人々の都市 City of hysteria -社会・経済的不安のために自らを防御しながらまわり
を警戒する態度の拡散 ②燃え尽き社会 Surviving burn-out society -すべてを白く燃やしてしまう
まで見届ける社会 ③デトックスが必要な時間 It's detox time -有害物質、中毒対象でいっぱいな
世の中で、物理的、精神的浄化に対する必要が増加 ④私ひとりのくつろぎ Alone with lounging -
ひとりだけの休息を楽しむ人々が増加 ⑤スカンディマムの出現 Bravo, Scandimom -高度成長期
に生まれて、北ヨーロッパ的価値観を持っている 30 代の母親、過度に競争的な育児、教育環境
を抜け出して、子どもとの情緒的な共感を追求、単純で、親環境的である北ヨーロッパスタイル
の製品を好んで「合理的贅沢」に寛大 ⑥味覚の帝国 Taste your life out -以前には「見ること」が
楽しみの主流をなしたとすれば、これからは味に熱狂するトレンド拡散 ⑦シーズンの喪失
Whenever U want -消費パターンの常時化、随時化 ⑧適切な不便の歓迎 Trouble is welcomed -消費
者が企業の過度な親切にむしろ嫌気をさす世相を反映しながら、消費者が参加する余地を残した
ビジネスが人気を得ること ⑨ナンセンスの時代 OTL Nonsense! -理性や論理よりは、奇抜で新し
い意味を構築する者が注目される時代 ⑩所有か共有か Redefined ownership -借りて共有して寄
付する「共有経済の時代」

また、韓国トレンド研究所では 2013 年の 10 代のキーワードを紹介しました。

①**バブル青年** Bubble Young man - 40代半ば以後、更年期をすぎて60代までの男たち。心の深いところで無気力感とうつ病を耐え抜かなければならないため、ヒーリング、心産業の最大潜在消費者 ②**ホットアジア** Hot Asians - 世界文化消費の主流としてアジア・ティーンエイジャーが浮上すること。食品、ゲーム、ファッション、音楽、整形などティーンエイジャーの人気コンテンツと文化格差の消滅 ③**イメージライジング** Image Rising - 言語障壁を越えるビジュアルコンテンツが浮上して、全世界的拡張性と感性的共有 ④**犯罪予防** Pre-crime - 性犯罪など日常生活で感じる事故の不安感をあらかじめ除去したり予防するトレンドが拡大 ⑤**価格でない価格** Price Non Price - 製品とサービスの価格が秒単位で更新されて、価格が消費者需要と関係なく、供給者の間のゲーム競争で拡大する現象増加 ⑥**ハイサイクル** HI-Cycle - 単純なリサイクル Recycle を越えて、商品寿命を増やして個性的価値を極大化したハイサイクル商品が出現。リサイクル、リフォーム、在庫、DIY市場など ⑦**スマートエージェント** Smart Agent - ショッピングの簡素化を専門家や自動プログラムが手助けする代行サービス ⑧**知能型アーカイブ** Intelligent Archive - 1次元的な情報収集でなく、高付加価値知識サービスで、加工された情報を保存して、特定目的を持った使用者に品質の高い情報を提供 ⑨**クリーンリワード** Clean Reward - 補償を通して消費者を生産の主体で参加させる速度と強度がますます増加 ⑩**市民参加都市** Citizen Friendly City - 都市別プロジェクトが政府や地方自治体主導の一方的な方式では限界に直面。市民一人一人が主人意識を持って参加できるコミュニケーションネットワーク、キャンペーン、ビジネスプロジェクトが実行され、人々はこういう時代の流れを見ながら共通して、一年の勝利に向かって走って行きます。ところで、世の中にだけ流れがあるのではなく、人生にも勝利の流れがあるのです。

人生にも流れがあります。 聖書は勝利する人生の流れをこのように語っています。

「愛する者よ。あなたが、たましいに幸いを得ているようにすべての点でも幸いを得、また健康であるように祈ります。」(Ⅲヨハネ1:2)

私もはじめにはこの話が分かりませんでした。

しかし、私の真実の姿を発見するようになったその日、悟るようになりました。

「人間は、自分の努力でまことの幸を得ることができないのだな！」

なぜでしょうか。

私が解決できない不幸の根本的な問題があるという事実と、私自身が弱い被造物であることを発見したためです。罪を犯すから罪人なのではなく、罪人だから罪を犯すようになるという事実の前に同意しないわけにはいきませんでした。そして、最も深刻な問題は、赤ん坊がお母さんなしに幸せなことがないように、私自身が人生の主人である神様を離れているという事実でした。

それで、人生の流れを変えることを決断しました。「たましいが幸いを得ているようにすべての点でも幸いを得…」

私のために出会いの道を開いてくださったその方、私のために罪人のくびきから解放されるようにドアを開けてくださったその方、私が勝つことできなかった目に見えない暗やみの勢力(サタン)に勝つように勝利を約束されたその方、その方は私に向かって、十字架でこのように宣言されました。

「完了した！」

あなたが解決できなかった残酷なほどの孤独、そして運命と運勢を解決したと約束してくださいました。罪の欲望による呪いとその中にかくされた暗やみ勢力の働きを解決したと約束してくださいました。そして、創造主の神様と永遠にともにいる幸せの道を開いてくださったと約束してくださいました。その約束の主人公がまさに「イエス・キリスト」です。

そして、その方は私を招いてくださいました。

「すべて、疲れた人、重荷を負っている人は、わたしのところに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます。」(マタイ11:28)

「しかし、この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった。」(ヨハネ1:12)

今日、神様は2013年を出発するあなたをメインストリーム Main Stream の座に招いておられます。

「愛する者よ。あなたが、たましいに幸いを得ているようにすべての点でも幸いを得、また健康であるように祈ります。」

この約束はあなたを愛する神様の招待状です。

あなたは大切な人です。

洗礼 救われた者の 確証

キリスト教の信仰告白書である小教理問答 94 問を見れば「洗礼とは、何ですか」答え「洗礼とは、ひとつの礼典です。そのとき、父と子と聖霊の御名によって水で洗うことが、私たちがキリストにつき木され、恵みの契約の祝福を分け与えられ、主のものになると約束することを、表わし証印するのです。」95 問には「洗礼は、だれに執行されるのですか。」答え「誰にでも与えるのではなくてキリストを信じて服従すると告白する者に与える」と言われています。

イエス・キリストを信じて神様の子どもになれば、教会で父と子と聖霊の御名によって洗礼を受けるようになります。それなら、洗礼が与えるまことの意味は何でしょうか。

①洗礼を受けるというのは信仰告白です。イエスが人間が解決できない根本問題と人生のすべての問題を解決されたキリストという事実を信じる告白で、イエス・キリストだけが人間が解決できない原罪、呪いと災い、サタンと地獄の問題を解決された御名ですという告白で、イエス・キリストの中にすべてがあるという信仰告白です。それで、イエス・キリストの中にいるということは、すでにすべての祝福をみな受けたのです。なぜなら、神様が永遠にともにおられるためです。

②洗礼は、イエス・キリストによって、原罪、自分が犯す罪、先祖の罪による呪いから永遠に解放されたという最高のしるしであり、呪いと地獄の権威から永遠に解放されたというしるしであり、人間を不幸にさせるサタンの手から永遠に解放されたというしるしです。(ローマ 8:1~2、ヨハネ 5:24) それで、イエス・キリストを信じる人はお祓いをする必要がなく、吉凶を占う必要がありません。

③洗礼は神様の子どもが受けた最高の祝福の確証です。イエス様が信じる者に、わたしが世の終わりまでいつもともにいますと言われました。(マタイ 28:20) それで、どんな問題があっても、イエス様にゆだねて待てば良いのです。どんな問題の前でも心を騒がせてはなりませんと言われました。「あなたがたは心を騒がしてはなりません。神を信じ、またわたしを信じなさい。」(ヨハネ 14:1) その程度ではなく、イエス様が再臨の主として来られる時に、信じる者を滅ぼさないという確実な保証です。(使徒 1:11) 言い換えれば、洗礼ということは、神様の子どもになったという身分、神様の子どもに与えられた権威、神様の子どもに約束された祝福に対する告白で、しるしであり、確証です。世の中のどんな患難も、災いも、問題も、困難も、神様の子どもに勝つことはできません。特に、サタンは絶対に神様の子どもに勝つことはできません。洗礼は、イエス・キリストの中にある祝福を今、味わうということです。

「しかし、神に感謝すべきです。神は、私たちの主イエス・キリストによって、私たちに勝利を与えてくださいました。ですから、私の愛する兄弟たちよ。堅く立って、動かされることなく、いつも主のわざに励みなさい。あなたがたは自分たちの労苦が、主にあってむだでないことを知っているのですから。」(1 コリント 15:57~58)

神様の子どもになる

受け入れの祈り

愛の父なる神様。私は罪人です。今まで神様を離れ、サタンの支配の下に縛られて、奴隷のように生きて来ました。しかし、今、この時間、イエス様を私の救い主、私の神様、私のキリストとして受け入れます。イエス・キリストは、神様に会う唯一の道であり、サタンの権威を打ち砕かれ、すべての罪とのろいと災いから私を解放してくださったキリストであると信じます。いま、私の中に入って来てくださり、私の主人になってください。今から私の生涯を細かく導いてください。イエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン

神様の子どもの

毎日の祈り

父なる神様、イエス・キリストによって神様がいつも私とともにおられて、導かれることを感謝します。今日も、すべての生活の中で、神様の子どもになった祝福を味わうように、聖霊で満たしてください。私の家庭と現場と行くところごとに福音を邪魔して困らせるすべてのサタンの勢力を権威あるイエス・キリストの御名で縛ってください。どんなこと、どんな問題でも、解決者であるイエス・キリストに任せて、その中で神様のより良い計画を発見しながら、聖霊に導かれる生活になりますように。そして、私の生活を通してイエス様がキリストであるということがあかしされ私の現場に神の国が臨むようにしてください。毎日、私の生活の中で神様の願いである世界福音化の契約を握って勝利できますように。今も私とともにおられるイエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン

Amor fati

アモール ファティ

あなたの運命を 愛しなさい



人は誰でも運命を持って生まれる。そのうちに、普通の人だが、普通の人でない特別な生活を送る人々がいる。彼らは誰が何も言わないのに、自らの人生に縛られて、苦しんでいる。それが神の道と言われるが、悪霊が選択した生活を送るシャーマンだ。彼らは自分たちに迫ってきた苦痛を避けようと努めたが、避けられなかったので、窓のない監獄に閉じ込められた自分たちの人生を運命だと話す。しかし、正確に話せば、人生を失敗させたサタンに掌握された縛られている人生だ。彼ら自身が生年月日による運命の方角、時間、墓地によって縛られているままで、悪霊が与える短い知識を持って自分と似た境遇の人々の運命を占ってあげてお祓いを行う。その結果で、人々に少しの間の慰めを与えるようだが、それにより、彼らはまた別の苦痛の中で一生苦しめられる。

人は、それぞれ自分が持った人生を、運命だと言う。運命は個人的だが、与えられた運命を守るのとは簡単なことではない。国家の運命の責任を負う指導者を選択するのは国民個人の役割だが、その結果はその指導者の運命で残る。普通、運命は個人のことにように見られるが、天のみこころによって支配される。私たちはみな、時代の中に生まれて、時代を生きるが、それが運命だ。

人間には自分の命運がある。ただし、それが地のことか、天のことかの差があるだけだ。それを自ら支配できないのが自らの生活を送る人間のジレンマだ。私が私の生活を送るのに、なぜ私が私の生活を制御できないのが哲学の難題で、宗教の宿題だ。人間は、人間自らをどうすることもできない。したがって、人間は与えられた生活を送らなければならない。したがって、強い力を持った存在者によって支配されることで今日の現実に勝っていくのが古典と先覚者を通して習う知恵であった。しかし、聖書

はそのようには言わない。

聖書は人間に運命などはないと言う。運命は、神様を離れた人々の状態を風習で表現する言語習慣であるだけだ。それなら、人間は苦痛を受けなくても良い原則を破って、自ら運命という苦痛の穴に陥ってもがいているという逆説的な言葉だ。それなら、人間には2種類の運命があるということになる。ない運命をないままで自由に生きる人と、ない運命があると感じるので、その中のスケジュールによって虚無的な生活を送る運命の人々だ。これがどのように可能なのか、人間自らの考えでなく、冒頭に話したように、だます者にだまされた結果として現れた偽りだ。

神様は完全な状態で人間を創造されたが、神様に従うよりサタンに従って完全になろうとした人間の結果で、完全でないサタンの奴隷に留まるようになったのだ。したがって、人間は人生のくびきに縛られて生活を送る。それで、過去のすべての記録は、人間が現実を逃避できないということであり、それゆえ、与えられた運命を生きなさいと言う。

苦痛ならば苦痛を楽しみなさい。運命が大変でも運命を愛しなさい。運命は誰もが持っているものであるから、絶対に避けられないということだ。ここに対してすべての歴史と宗教と哲学はうなずくが、ただ聖書だけはそうではないと話す。運命は存在しないことなのに作られたのであり、さらには運命を解決する絶対者の出現を知らなかったためだ。

チョン・ヒョングク (福音コラムニスト)

* 相談したい方はこちらまでどうぞ